

## 006 うさお

倅がmixiとかをやっています。これはメンバーからの紹介がないと入れないようです。倅は紹介してくれないしなあ。詰まんない！なにが書いてあるのか、メンバー制だから著作権はOKなのかな。

本を読む能力が頓に衰えてきました。読解力が無くなって来たのかな。CPDと言うものが流行っています。ある得点に達しないと、建築士とかの資格の継続が出来なくなるんだって。これって履歴をとらなきゃいけないので面倒くさいんだ。心楽しくないなあ。このごろの日常生活。早く歳が来て、リタイヤしたい。

(ほかの人は結構がんばって働いているのを見ると、うさおだけの怠け病かなあ。今ドクガクのバックナンバーをホームページに作成中。あやや、途中の号は目次もないし、ファイルもばらばら。ディレクトリで分けるということもしていなかったの、8号から再構築です。途中飛ばして出来るところからやったほうが良いかなあ)

<http://www.usao.jp>



著書名	作家	概要	☆幾つ？
へんこつ	平岩弓枝	偏屈で反骨精神旺盛の老人、その名は滝沢馬琴。わがままな妻、ひ弱な息子、気の利かない娘、嫌味たっぷりの隣人、分らず屋の出版者…毎日が苛立つことばかりで、「八犬伝」の筆もなかなか進まない。そんな馬琴が、夜道で犬を連れた謎の女性とすれ違ったことから、思わぬ事件が動き出す…。	☆☆☆☆ この人はストーリーテラーだから大変面白く読み進んじやった。本当、性同一視障害だからここに書いている。すごいなあ、昔の作品なのに。
殺人者志願	岡嶋二人	「ある人物を、殺してもらいたい」。菊池隆友と鳩子の若夫婦は、突然の話に言葉を失った。膨らんだ借金に困り果て、鳩子の親戚である会社社長に泣きついた二人は、借金を肩代わりする条件として、殺人を依頼された。背に腹はかえられない。二人はターゲットの身辺調査に取りかかる。	☆☆☆ 以前読んだものを読み返したものの。自宅にあつたら、絶対読まない。でも面白かったよ。
タイトルマッチ	岡嶋二人	元世界ジュニア・ウェルター級のチャンピオン最上永吉の息子が誘拐された。彼を破ったジャクソンに義弟が挑むタイトルマッチ二日前の事だった。犯人の要求は、“相手をノックアウトで倒せ。さもなくば子供の命はない”。犯人の狙いは何か。意想外の脅迫に翻弄される捜査陣。	☆☆☆ 以前読んだものを読み返したものの。自宅にあつたら、絶対読まない。こんなストーリーだった、90%読んでも気づかなかった。
うぐいす侍	山手樹一郎	うぐいす侍、槍一筋、下郎の夢、紅だすき無頼、後家の春、梅の宿、戸塚の夜雨、竹光と女房と、香代女おぼえ書、久楽屋の娘、おぼろ月、うなされる女	☆☆☆☆ まあ、良いんじゃない。これほどお手軽なものだつて。さらさらって読めちゃうよ。江戸情緒もあるしね。
Twelve Y. O.	福井晴敏	沖縄から米海兵隊が撤退した。それは米国防総省が、たった一人のテロリストに屈服した瞬間だった。テロリストの名は「12」。最強のコンピュータウィルス「アポトーシス2」と謎の兵器「ウルマ」を使い、米国防総省を脅迫しつづける「12」の正体は？	☆☆ タイトルや宣伝文句から期待したほどではなかった。
看守眼	横山秀夫	いつか刑事になる目を夢見ながら、留置管理係として過ごした近藤。まもなく定年を迎える彼は、証拠不十分で釈放された容疑者の男を執拗に追う。マスコミを賑わした「死体なき殺人事件」の真相を見抜いたのは、長年培った「看守の勘」だった。『自伝、口癖、午前五時の侵入者、静かな家、秘書課の男』	☆☆☆ 語り口が上手いんで、2時間ですべて読んでしまうので、電車の行き帰りに最適1冊。
ダブル・スパイラル	米山公啓	遺伝子操作は神の奇蹟か、それとも悪魔の業か！？医博である著者が最新情報を駆使した衝撃作！戦慄の医学ミステリー。	☆☆ 専門家が専門について小説にしないほうが良いのでは。小説は嘘をついて何ぼの世界ですからね。
月狂ひ	小池真理子	冴え冴えとした月光の射し込む夜半の診察室。消毒薬の匂いがたちこめるベッド。視線を上げた幼い私が眼にした二つの影。母の倫ならぬ恋の目撃者は、自らもその人生の秋に狂おしい恋に堕ちていった。縊死という悲しい手段で不倫にピリオドを打った母の最期の姿を眼に焼きつけたまま私は身悶えする。	☆ こういうどろどろとした恋愛譚は嫌い！
約束の地	志水辰夫	男、生きて沙漠、荒涼の彼方	☆☆☆☆ 簡にして瞭。スパルタンな書き方が共感を呼びます。

著書名	作家	概要	☆幾つ？
影踏み	横山秀夫	窃盗罪での服役を終え出所した真壁修一(34)が真っ先に足を向けたのは警察署だった。二年前、自らが捕まった事件の謎を解くために。あの日忍び込んだ家の女は夫を焼き殺そうとしていた。生きている人間を焼き殺す。それは真壁の中で双子の弟・啓二の命を奪った事件と重なった。	☆☆☆ 空き巣狙いが得意の元司法書士崩れ。多重人格物語。
ひたひたと	野沢尚	閉ざされた部屋に集まった五人の男女が、自らの心の闇を一人ずつ告白し合う。著者の急逝により、この物語は二人目の告白で終わってしまったが、著者が目指した高みは、読む者の胸に激しく迫る。	☆☆☆ 死んじゃったんだって作者本人が。確かにTVの脚本家だったね。この後はどうなるんだ？
殺し屋シュウ	野沢尚	首都大学文学部の研究室に真面目に勤めるシュウ。ひとたび依頼があれば、「人殺しの芸術家」に変わる。だけど傷つきやすいのが悪い癖。最初の殺しは自分の肉親だった。気鋭の作家が放つスリリングな新シリーズ	☆☆☆ 細かいアイテムは嘘ばかりだけど、良いんだよ！小説は嘘ばかりなんだから。
武家	山本周五郎	よじょう。日日平安。大炊介始末。町奉行日記。十八条乙。改訂御定法	☆☆☆☆ 最近読み直しをして、椿三十郎を見直して納得。納得できないのはコピーしたDVDが経年変化か画面飛びをすること。太陽誘電にしとけばよかったな。
うしろ姿	志水辰夫	トマト、香典、むらさきの花、もう来ない、ひょー！、雪景色、もどり道 人生の終着が見えてきたとき、人は何を思うのか…。あるいは望まない道に引き込まれ、あるいはすすんで荒波の中へ、片隅で生きてきた人間の哀しさ、たくましさ	☆☆☆ 短編であるのが物足りないのだが、作風が気に入っているのだから、良いや。
都市伝説セピア	朱川湊人	。「アイスマン」は、淡い恋心から見世物を探り16歳の少年が、「河童の氷漬け」のウラの事実を知る。「昨日公園」、「フクロウ男」、「死者恋」、「月の石」まで幻想文学のジャンルでどちらかといえば「乙一」の世界	☆☆☆ 乙一のほうが話術が達者なので、読ませる。プロットは似たようなものか。



この人はブラック・ダリアのモデルだったエリザベス・ショートです。女優を目指していた彼女はあるとき変死体で見つかります。

発見者がマネキンが捨てられていたと思ったその屍体は、腰から二分割されたものでした。アメリカにおけるジャック・ザ・リッパーに匹敵するものでした。しかも、口は右の耳から左の耳まで切り裂かれていました。ここでは掲載しませんが、アメリカのサイトに行くとその分断された屍体の新聞写真が載っています。結構悪趣味です。

ブライアン・デ・パルマ監督の「ブラック・ダリア」はその辺りをポスターで示しています。和ちゃんはまだ見ちゃっているようですが、うさおはDVDになるまで見れません。うらやましいなあ。

何故マネキンと思われたのか、それは異常なまでに白い体にあっただけです。完全に血抜きされ、丁寧に洗浄されていたため、作り物のように見えたことせした。

被害者はエリザベス・ショート(22)、女優を目指しましたが実現せず、いつしか浮名を多く流すことになるのだが、彼女自身は性不全で性交が出来ない体だった。殺されたのは1947年1月15日のことです。同年にうさおが生まれているので、うさおが犯人であることはありえません。

彼女は黒い服を好んで着たことから、「ブラックダリア」と呼ばれていました。それゆえ彼女は最も美しい屍体と呼ばれました。彼女の同僚や犯人と目された人物が次々に殺されていきます。

現実のほうが物語より怖いですね。

